

令和 7 年度（2025 年度）

業 務 概 要



センター全景

長崎県立こども医療福祉センター

〒 8 5 4 - 0 0 7 1 諫早市永昌東町 2 4 - 3

T E L 0 9 5 7 - 2 2 - 1 3 0 0

F A X 0 9 5 7 - 2 3 - 2 6 1 4

基 本 理 念

- こどもの心とからだの発達の支援と治療を行います。
- 家族への子育て相談と支援を行います。
- 保健、医療、福祉、教育などの関係機関と連携し、
地域療育活動を支援します。

こどもの患者さんの権利

1. あなたの基本的人権を尊重します

私たち職員はあなたをかけがえのない一人の大切な存在として認めます。

2. あなたの個性、主体性を大切にします

私たち職員はありのままのあなたを大切にし、あなたが自信を持って成長したり自分の目標や夢を実現することができるように支援します。

3. 安全で安心できる入院生活環境を整えます

私たち職員はあなたが治療や回復にしっかり取り組むために、安全で安心できる入院生活を送れるようにします。

4. あなたの意見表明、自己決定を尊重します

私たち職員はあなたが自分の意見や要望を言うこと、治療や生活に支障がない限りの自分のことは自分で決めることを尊重します。

基 本 方 針

1. 障害を持つ子どもだけでなく、すべての子どもの成長・発達を支援し、個人個人がその人らしく生きることができる社会の実現に貢献する。
2. 子どもを抱える家族を医療と福祉の立場から支援し、地域社会からの孤立を防ぎ、よりよい環境で子どもが成長できるよう努める。
3. 患者さん、利用者さんと家族の意見をしっかりと聴き、お互いが信頼し合って対等な関係で目標に向かえる施設をめざす。
4. 虐待防止や医療安全に関する職員の意識を高め、患者さん、利用者さんと家族のみなさんが安心して気持ちよく利用できる施設をめざす。
5. それぞれの職員が自分の仕事に誇りを持ち、お互いを尊重して対等に議論しあえる職場、意欲的に活動できる職場をめざす。

はじめに

当センターは、昭和 29 年に県立整肢療育園として開設され、肢体不自由児および重症心身障害児に対する療育・訓練を基本とした、医療と福祉を行う施設としてスタートしました。平成 13 年には「こどもの心と体の発達支援」を基本理念とした包括的療育拠点施設「こども医療福祉センター」としてリニューアルし、あらたに小児科を診療科目に加え、神経発達症、心身症、不登校、神経筋疾患、てんかんなど、多岐にわたる子どもの診療が可能な施設となりました。そして、県民の皆様の支えにより、昨年、創立 70 周年を迎えることができました。

長い歴史を持つ当センターではありますが、組織全体としてのあり方を深く考えさせられる事案が、一昨年来、相次いで発生いたしました。一つは、令和 5 年度に発覚した施設内虐待行為、もう一つは、昨年度に発生した車いす転倒事故です。

このような事案は決してあってはならないことであり、同じような事件、事故を、二度と起こさないよう、職員の意識を高めるとともに、虐待防止対策委員会の充実、施設の安全管理の徹底、医療安全管理体制の強化、第三者評価の実施などに取り組み、県民の皆様が安心して利用できる施設となるよう努めているところです。

70 年の間に当センターを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い果たすべき役割も変わってきています。しかし、当センターが県内に存在する意義は変わらず大きいものと考えています。

これからも関係機関と連携しながら、すべての子どもの成長・発達を支援し、子どもたちが地域でより良い生活を送れるよう取り組んでまいります。

令和 7 年（2025 年）7 月

長崎県立こども医療福祉センター
所 長 小柳 憲司

目 次

I センターの概要

1	センターの業務と特色	1
2	施設概況等	1
3	施設基準等	2
4	沿 革	2
5	組 織	3
6	職種別職員数	3

II 入所・入院部門

1	実 績	4
2	担当スタッフ	4
3	業務内容	4
4	主な業務の特色	5
5	日課・年間行事	8

III 外来部門

1	実 績	10
2	担当スタッフ	10
3	業務内容	10
4	外来診療体制	10
5	主な業務の特色	11

IV 地域連携

		17
--	--	----

V 発達障害児（者）支援

		20
--	--	----

VI 栄養関係業務

		23
--	--	----

VII 薬局・検査・X線撮影

1	薬局業務	26
2	臨床検査業務	28
3	X線撮影業務	29

VIII 心理業務

		30
--	--	----

IX 研究・実習等

1	研究発表・講演・著作等	32
2	ボランティア活動	39
3	実習受入	40

X 建物概要

		41
--	--	----

資料編

(1)	入院患者数の推移	42
(2)	外来患者数の推移	42
(3)	入所・入院患者の病類別人員	43
(4)	入所・入院患者の在所期間別	43
(5)	入所・入院患者の年齢別	43
(6)	外来患者の病類別延人員	44
(7)	外来患者の出身地別延人員	44
(8)	手術実績	45
(9)	訓練指導件数	46
(10)	入所児の要介護の状況	46
(11)	障害児等療育支援事業（実績）	47
(12)	医療等従事者実習（実績）	47
(13)	令和6年度障害児（者）巡回療育相談実施状況	48

I センターの概要

1 センターの業務と特色

当センターは、長崎県立児童福祉施設条例に基づく障害児入所施設（医療型）であるとともに、医療法による病院です。

従来、施設の利用は児童福祉法による入所措置（行政による決定）を原則としていましたが、平成18年10月の障害者自立支援法（障害者総合支援法）の施行に伴い契約入所が原則となりました。

当センターの契約入所児数は年々減少し、それに代わって医療保険による入院あるいは外来の治療・訓練が主となってきています。また、肢体不自由児施設として整形外科を中心としてきましたが、平成13年度、小児科各科の増設により小児医療の充実を図り、すべての障害児を対象とした県下の拠点的な施設としての役割を担っています。

これに合わせ地域療育部門を設置し、当センターのスタッフを保育所、幼稚園、学校、児童発達支援事業所等へ派遣し、地域の療育活動及び体制整備への支援を行ってきました。平成23年度からは地域連携室を設置し、同室を中心に地域支援を強化しています。

その他、早期治療の一つとして1週間、2週間コースの親子入院、就学前の発達障害児を対象とした集団親子入院、障害のある子どもを持つ保護者に対する子育て支援などの療育支援活動を行っています。なお、入院・入所中の児童は、隣接する長崎県立諫早東特別支援学校で義務教育を受けることができます。

2 施設概況等

項 目	内 容
所 在 地	〒854-0071 長崎県諫早市永昌東町 24 番 3 号
病 床 数	60 床（一般 50 床、親子棟 10 床）
診 療 科 目	【常設診療科】 整形外科、小児科(小児発達・小児神経・小児心療) 精神科、リハビリテーション科 【非常設診療科】 歯科、泌尿器科、耳鼻咽喉科
敷 地 面 積	18,646 m ²
建 築 面 積	7,569 m ² （1 階：4,155 m ² 、2 階：3,137 m ² 、3 階：277 m ² ）
構 造	鉄筋コンクリート造り 3 階建て
駐 車 場	175 台
交 通 機 関	J R 諫早駅より徒歩約 7 分 県営・島鉄バス(諫早駅前ターミナル)停より徒歩約 6 分

3 施設基準等（令和7年4月1日現在）

① 15歳未満

- ・小児入院医療管理料3
- ・プレイルーム加算（娯楽室）

② 15歳以上

- ・一般病棟入院基本料
- 地域一般入院基本料（地域一般入院料2）

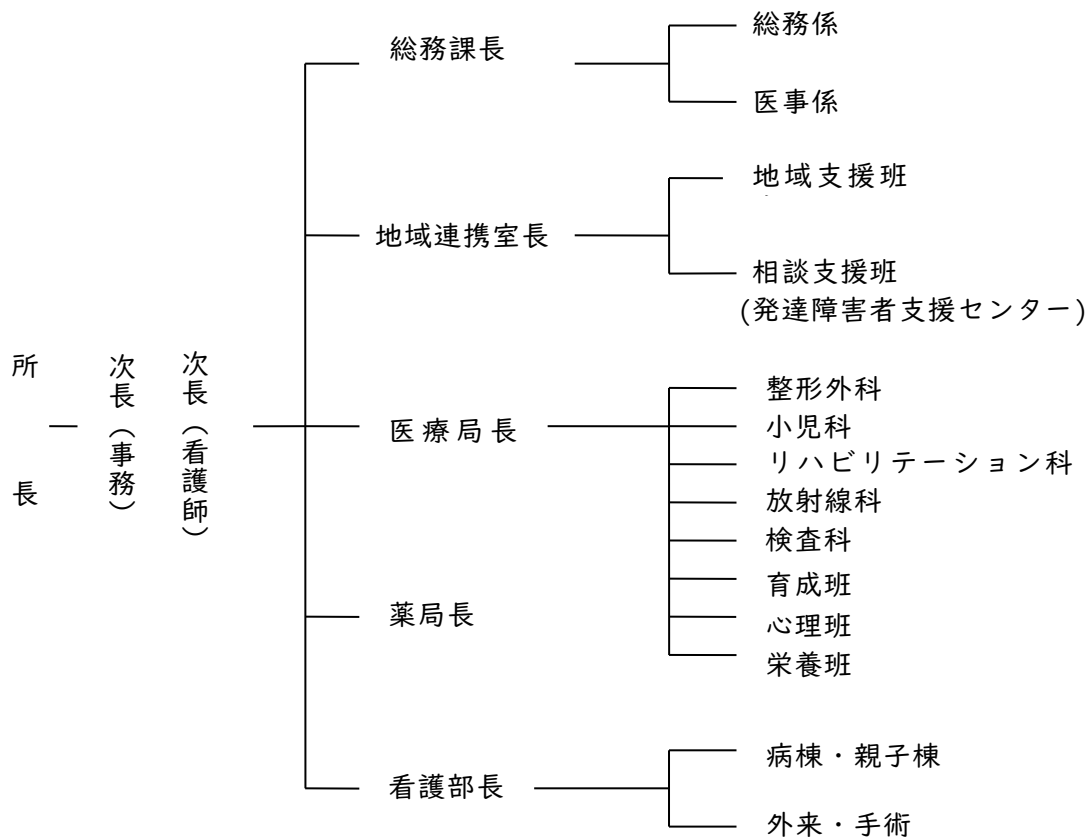
③ 共通

- ・重症者等療養環境特別加算
- ・療養環境加算
- ・小児運動器疾患指導管理料
- ・入院時食事療養（Ⅰ）入院時生活療養（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・障害児（者）リハビリテーション料
- ・CT撮影及びMRI撮影 ※当センターはCT撮影のみ
- ・初診料（歯科）の注1に掲げる基準

4 沿革

昭和29年12月1日	長崎県立整肢療育園開設(50床)、21日第1回入園式
昭和34年5月1日	病床数50床増床により100床
昭和37年4月1日	病床60床(うち母子棟10床)増床により160床
昭和48年3月30日	本館、第1、第2病棟改築
昭和57年4月1日	島原通園部(島原温泉病院内)を設置
昭和59年11月7日	病床数160床を110床に変更
平成13年4月1日	「長崎県立こども医療福祉センター」に名称変更 病床数を60床(一般50床、親子棟10床)に変更
平成13年9月30日	島原通園部廃止
平成17年7月20日	新センター建物完成
平成17年8月22日	新センター業務開始
平成23年4月1日	地域連携室創設

5 組 織



6 職種別職員数（令和7年7月1日現在）

職 種	医 師	薬 剤 師	診療放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護 師	社会 福祉	社 福 (心 理)	保 健 師	保 育 士	管 理 栄 養 士	調 理 員	一 般 事 務	相 談 支 援 等	運 転 士	庁 舎 管 理	計
人 員	7	1	1	1	(1) 6	(1) 6	5	(3) 35	5	(2) 4	1	(2) 12	2	(5) 3	(3) 6	(3)	1	(1)	(21) 96

()は非常勤（会計年度任用職員）で外数

Ⅱ 入所・入院部門

医療型障害児入所施設として、治療・訓練・生活指導など医療や育成の面で援助を行っています。また、不登校や概日リズム睡眠障害、起立性調節障害、摂食障害などの小児科疾患についても入院治療を行っています。なお、義務教育は隣接する諫早東特別支援学校（小学部・中学部）に通学できます。

Ⅰ 実績

令和6年度の入院延人員は9,317人で、実人員は680人でした。そのうち県外からの入院児は42人でした。

○令和6年度 出身地別入院実人員

出身地	実人員	出身地	実人員	出身地	実人員
長崎市	87	西彼杵郡	20	福岡県	11
佐世保市	12	東彼杵郡	18	佐賀県	23
島原市	51	北松浦郡	1	熊本県	2
諫早市	188	南松浦郡	7	大分県	0
大村市	139			宮崎県	0
平戸市	17			鹿児島県	0
松浦市	8			沖縄県	2
対馬市	1			九州以外	4
壱岐市	0				
五島市	9				
西海市	6				
雲仙市	45				
南島原市	29			他県計	42
市部計	592	郡部計	46	合計	680

2 担当スタッフ ※他部門との重複を含む

医師：7名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
 作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：27名、保育士：10名、児童指導員：2名
 心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名（令和7年7月現在）

3 業務内容

診察、治療、手術、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法（摂食指導を含む）、日常生活指導、学習指導、避難訓練、家庭との連絡、保育、評価、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、カウンセリング（保護者）など。

4 主な業務の特色

(1) T. O. P. S. S

隣接する諫早東特別支援学校の自立活動の時間において、専門的な立場から指導目標、指導内容、指導方法等に関する指導助言を行っています。この名称を「T. O. P. S. S (トップス)」(※ Teacher, OT, PT, ST, Student の略称)と呼び、カンファレンスなどで共通の目標を設定し、情報交換を密に行うことで療育の効果をあげています。

理学療法士は年間を通じて火曜日・金曜日の 10:30～12:15、作業療法士及び言語聴覚士は学校の依頼に応じて参加しています。

○令和6年度支援実績

理学療法 支援 62 回

作業療法 支援 1 回 講演 (PEERS) 1 回

(2) 親子入院

主に脳性麻痺をはじめとする脳性発達障害児、および発達障害のおそれがある未就学児を対象としています。また、離島や各地域に居住し、通所治療が困難な場合や集中した療法(理学・作業・言語聴覚)および指導が必要な場合は、親子共に入院し、診療、相談、指導を受けることができ、整形外科医、小児科医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、保健師、看護師、保育士、管理栄養士、調理員などのスタッフが担当します。

親子入院には、肢体不自由児を中心とした「らっこ組」と発達障害児を対象とした「めだか組」があります。

〔目 的〕

- ・両親を中心に無理なくできる育児、療育、保育など発達促進の工夫を家族が知り、家庭で継続して実践できるような指導や助言を受けていただく。
- ・子どもと親がゆっくり関われる時間を持っていただく。
- ・一緒に入院した他の家族と知り合い、交流の機会を持っていただく。

〔開催時期〕

- ・らっこ組：通年（1 週間・2 週間コースあり）
- ・めだか組：年 6 回（1 週間）

〔対 象 児〕

- ・らっこ組：0 歳～就学前の脳性麻痺をはじめとする肢体不自由児
- ・めだか組：3 歳～就学前の歩行ができる発達障害児

人員 \ 年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
利用延人員 (人)	112	104	97	106	110	90
実人員 (人)	53	48	48	53	88	42

(3) 療育入院

主として発達障害児を対象とし、日帰りとし泊2日入院があります。療育入院は、心理発達検査、作業療法評価、言語評価の中から組み合わせて行っていますが、理学療法評価が加わる場合もあります。評価の結果から今後の支援や対応につないでいます。

人員 \ 年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
利用延人員(人)	316	310	295	299	318	315
うち日帰り	307	304	288	291	311	312
うち1泊2日	9	6	7	7	7	3
(特例) 2泊3日						

(4) 短期入所(ショートステイ)

障害のある児童及び身体障害者を介護している家族が、レスパイトやきょうだいの行事等への参加、通院などのために家庭で介護することが一時的に困難になった場合に、当センターをショートステイ施設として利用していただいています。

ショートステイを初めて利用する場合は、利用前に小児科受診を勧め、ショートステイ当日は、医師の健康チェックを行っています。また、家族からの情報(注意事項・要望)を得、医師・看護師・保育士等で共有し関わっています。

利用は、重症心身障害児が多いため、対象児の安全に心がけ、看護師・保育士が協力して対応しています。

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
利用実人員(人)		20	9	13	21	30	28
延べ日数(日)		245	47	71	179	337	347
利用期間	日 帰 り(回)	7	21	4	7	8	5
	1 泊 2 日(回)	30	42	16	39	37	61
	3 日 以上(回)	10	39	9	23	60	55
利用回数	1 回(人)	2	7	4	9	6	9
	2 回(人)	4	3	6	3	9	4
	3 回 以上(人)	3	10	3	9	15	15

(5) 病棟・親子棟の看護

看護部では、「私たちは、自らの資質を高め、センター内外の関係職種と連携し、児がその子らしく成長発達ができるように援助します。」という理念のもとに看護を提供しています。

看護の提供方式は、固定チームナーシング方式で、1年間、看護部目標、病棟目標と連動してチーム目標を立てて取り組んでいます。現状の問題点を分析し、実現可能な目標を設定し、課題達成に向けて看護活動を実施しています。技術の伝承ができるように、小集団活動として取り組み、看護実践にいかしています。年度末にはチーム活動報告会を行い、看護研究に発展させています。

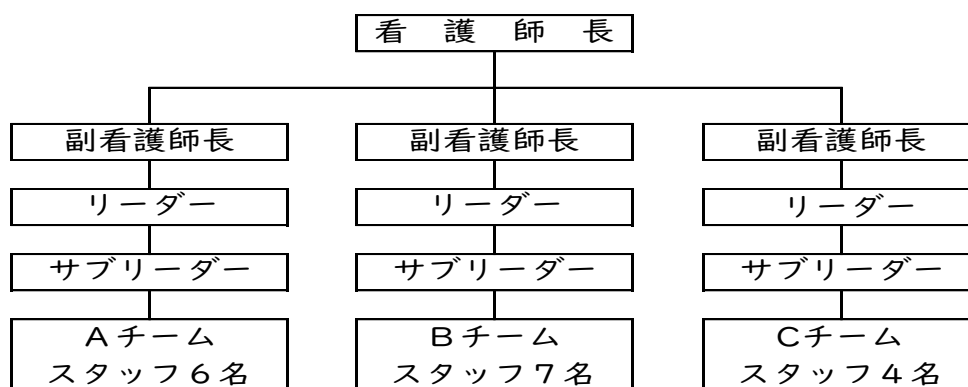
病棟では、看護師と保育士の協働で、入院・入所児の食事や入浴など日常生活や余暇活動の支援にあたっています。多職種での毎朝の申し送りや週に1回の合同カンファランスを行い、情報を共有し、効果的な支援が実践できるよう努めています。

また、入院中の就学児童は、隣接する諫早東特別支援学校で教育を受けています。同校の教員とは、日々の引継ぎや整形カンファランス、小児カンファランスで情報を共有し、連携を図っています。

【チームの特性】

区分	対 象 児	入院・入所児の状態
Aチーム	①手術やリハビリを目的に入院・入所する児(者) ②ショートステイ	①介護度が高い ②言語的コミュニケーションの障害を持っている児がいる。 ③危険認知が乏しい児がいる。
Bチーム	①小児心療科の児 ②てんかんの検査・治療を目的とする児 ③医療的ケアが必要な児(者)	①日常生活の自立度が高い ②入院期間は、1泊2日～1週間の検査入院。内服調整入院。また心療では、数ヶ月～1年に及ぶ児もいる ③介護度が高い
Cチーム	①肢体不自由児や医療的ケア児とその保護者 ②療育が必要な発達障害児とその保護者	①保護者同伴のリハビリ入院 入院期間は1又は2週間 ②発達の評価を目的とした評価入院 入院期間は日帰りまたは1泊2日

【チーム編成】



【勤務体制】

区 分		月	火	水	木	金	土	日
早出(6:15～15:00)	保育士	2	2	1	2	1	1	1
早出(7:00～15:45)	看護師			1		1		
	計	2	2	2	2	2	1	1
日勤(8:45～17:30)	看護師	8～12	8～12	8～12	8～12	8～12	4	4
日勤(9:00～17:45)	保育士	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4		
	計	11～16	11～16	11～16	11～16	11～16	4	4
遅出(12:30～21:15)	看護師	1	1	1	1	1		
	保育士	2	2	2	2	1	1	2
	計	3	3	3	3	2	1	2
夜勤(17:00～9:30)	看護師	3	3	3	3	3	3	3

(6) 生活支援

それぞれの能力や目的に応じた身辺自立と、社会性や協調性を身につけ楽しく集団生活を送ることができるように、看護師と保育士が協力して支援を行っています。

5 日課・年間行事

①日課表

日課

起床・排泄・更衣・洗面	6 : 3 0
朝食準備	7 : 1 0
朝食	7 : 3 0
登校（授業）	8 : 2 0
幼児保育 10:30～11:15	}
検温・昼食(センター)	1 2 : 2 0
歯磨き・登校	1 3 : 0 5
下校	1 4 : 0 0
入浴・リハビリ・	}
余暇活動・おやつ	1 5 : 0 0
夕食準備	1 7 : 2 5
夕食	1 8 : 0 0
歯磨き	1 9 : 0 0
学習、余暇活動	}
	2 0 : 0 0
就寝準備	2 0 : 3 0
消灯	2 1 : 0 0

②主な年間行事（＊学校と共催）

5月（＊療育運動会）、8月（夏祭り）、11月（秋のレクリエーション）、
12月（クリスマス会）、2月（エール会）、
その他：避難訓練（毎月：第4水曜日）、ブラッシング（毎月：第1・2月曜日歯科衛生士来所）

■所内での生活等

看護師、保育士、児童指導員が看護と日常生活を通じた療育（治療と育成）を行います。

また、夏祭り、クリスマス会などの諸行事により、集団生活を通して社会性を養います。

夏祭りのようす



クリスマス会のようす



節分のようす



卒業を祝う会のようす



外来部門

発達に障害を持っている児を対象に、医療、各種機能訓練、集団療育、心理療法、幼児保育、療育相談などを行っています。診療科目は整形外科、小児科（小児神経・小児発達・小児心療）、リハビリテーション科に加えて、非常設科として、小児歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の診療を行っています。

1 実績

令和6年度の外来患者数は、のべ30,978人。1日平均患者数は、個別訓練や集団療育を含めると127.5人/日。また、小児科診察で新患、再診の多い曜日には、143人/日の外来者があります。言語の遅れや落ち着きがない等の小児発達や不登校などの小児心療科を受診する児は、増加しており、巡回療育相談や健診、地域の小児科からの紹介、保育所や学校からの紹介が増えています。はじめての受診後は、当センターや地域での療育につなげています。

また、専門医がいない地域などには出向いて診療を行っており、令和6年度は諫早総合病院、西海市等乳幼児健診、五島中央病院、上五島病院、対馬病院、長崎大学病院小児科、長崎子ども・女性・障害者支援センター、佐世保市子ども発達センター、佐々町立診療所となっています。

2 担当スタッフ ※他部門との重複を含む

医師：7名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：7名、保育士：4名、児童指導員：2名
心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名（令和7年7月現在）

3 業務内容

診察、治療、手術、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、療育相談及び指導、栄養指導や摂食指導、幼児保育や療育、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、ペアレントトレーニング等

4 外来診療体制

以下の体制で、予約制をとり診療しています。けいれん発作やけいれん重積発作、肢体に基礎疾患のある児（者）の骨折などは、緊急対応を行います。診療は発達状況や障害の評価が必要に応じて行われます。

常設科	小児整形外科：月・水・金曜日（火曜日は手術） 小児発達・神経・心療：月～金曜日（新患は月・火・水・木の主に午前中）
非常設科	障害児歯科：月・火曜日 耳鼻咽喉科：第2木曜日 午後 泌尿器科：第1・4木曜日 午後
診察時間	9：00～17：00
休診日	土・日・祝日

5 主な業務の特色

1) 幼児保育

(1) 趣 旨

医師をはじめ、多職種との連携のもとに発達段階に応じた保育を行い、子どもの持つ能力を引き出すとともに、集団への適応力を育て、地域の保育所や幼稚園への就園、通所支援事業所等利用へとつなぐことを目指します。

(2) 目 的

○「遊び」を通じて様々な発達を促す。

○基本的生活習慣の自立を目指す。

○保護者の保育への参加を通して、子どもへの関わりについて支援する。

○地域の保育所、幼稚園へ入所する前段階と考え、集団への適応力を育てる。

○保護者間の交流を深め、育児の不安や悩みを話す場として活用してもらう。

病棟児・・・個々に応じて遊び方を工夫し、関わる職種間で連携・協力し、術後の回復やリハビリにしっかりと取り組めるように支援する。

親子入院・・・（リハビリ、ハンドリングが目的の入院）

保育の中で、入院目的に応じた観察およびアプローチを行う。保護者に対して、家庭での遊び方や関わり方を支援する。

外来児・・・個々のケースを観察し、発達段階に応じたアプローチを行う。親子保育を通して、保護者の子どもへの関わり方を支援する。地域の児童発達支援の利用や幼稚園・保育園の就園に向けて、集団への適応力を育てる。

(3) 対象児

○医師が幼児保育の必要性を認めた児

○外来児については、保育所・幼稚園に就園していない児

○評価、診察待機児

(4) 保育時間と内容

病棟・親子棟入院	外 来	めだか
10:30 自由遊び	10:00 自由遊び	10:40 (SI 室) 自由遊び、サーキット
10:45 体操、 マッサージ ふれあい遊び お集まり	10:30 体操 マッサージ ふれあい遊び お集まり	11:10 排泄指導
11:00 設定保育 ・手を使ったあそび ・運動あそび ・リズムあそび ・音楽療法	設定保育 ・手を使ったあそび、 ・運動あそび、 ・リズムあそび ・音楽療法	11:15 (幼児保育室) マッサージ 認知課題 歌あそび 製作など
11:15 おかえりのあいさつ	11:15 おかえりのあいさつ	11:45 おかえりのあいさつ

(5) その他

- ・保護者勉強会・・・・・・・・・・子育てに関する知識を得る機会を設定。
- ・園への技術支援・・・・・・・・・・就園後、保護者や園の依頼に応じて園支援を行う。就園先の職員の訪問・見学を受け入れる。

(6) 保育実績

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
外来	実人員	13	11	9	6	7
	延人員	199	191	124	89	128
病棟	実人員	17	13	20	10	15
	延人員	392	370	477	186	383
親子棟	らっこ	実人員	43	38	40	33
		延人員	458	410	435	351
	めだか	実人員	6	11	10	5
		延人員	30	62	51	32
合計	実人員	79	73	79	57	60
	延人員	1,079	1,033	1,087	658	894

2) 集団療育

自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、知的発達症などの子ども達に対してグループでの活動を実施します。

〔目的〕

- ① 子ども達の全体的な発達を促し、将来家庭や地域の中での自立・適応を目指します。
- ② グループ活動を通し、対人意識・対人関係能力を高め集団生活への適応を促します。
- ③ 保護者が子ども達の特性や適切な対応方法を学ぶための支援を行います。
- ④ 関係機関訪問支援を通して園や学校と連携し、子ども達への相互理解を深めます。

〔対象〕

対人面、行動面、認知面などの発達特性により、集団適応に困難さがある幼児から小学生のうち、医師が集団療育を必要と認めた方です。

- ・午前グループ：超早期(初診受付時、3才未満)、超早期フォローアップ、親子支援グループ
幼児（年齢と特性に応じたグループ）

- ・午後グループ：幼児、学齡児

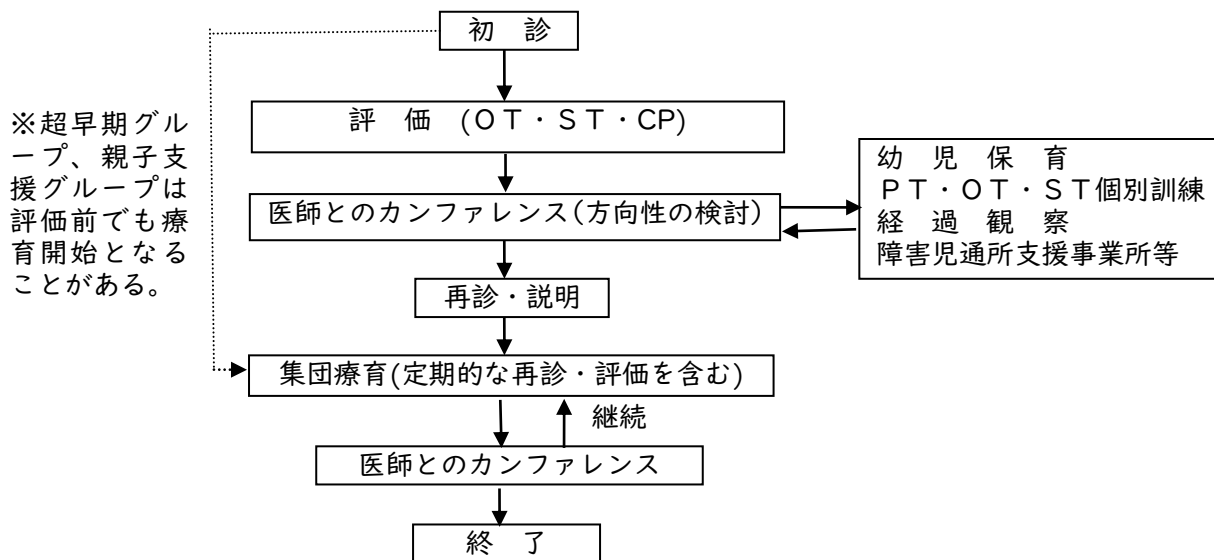
〔頻度〕

- ・月2回～月4回（対象児による）

〔内容〕

- ・小集団活動の中で子どもの状態に応じた課題や遊びを通して、対人意識やコミュニケーション能力を高め、ソーシャルスキルを学ぶ場を提供します。
- ・得意な活動とともに、苦手な活動にもチャレンジできるような場面設定や対応の仕方を工夫し、自信をつけられるように支援します。
- ・家庭や園・学校での様子を把握し、療育活動と関連づけ、保護者が療育及び子どもへの理解を深められるように支援します。また、言語、運動、遊び、日常生活動作、就学、福祉制度などについて専門職種による保護者勉強会を実施します。
- ・子どもが所属する園や学校などを訪問、支援するとともに、必要に応じて保護者によるサポートブック作成を援助し、地域で安心して生活するための一助とします。

《集団療育の流れ》



○療育登録者及び参加人数の推移(年度)

区 分	2年	3年	4年	5年	6年
登録者数	82	75	62	55	60
参加実人員	79	73	62	55	59
参加延人数	1,142	941	965	820	859

○関係機関訪問実績(年度)

箇所／年度	2年	3年	4年	5年	6年
幼稚園	1	0	3	0	3
保育所(園)	3	9	6	8	8
こども園	0	1	0	0	0
小学校	2	8	8	3	3
事業所	0	3	0	1	3

○令和6年度学年別・居住地別登録者数

未満児	30
年少	7
年中	3
年長	3
1年	4
2年	4
3年	1
4年	4
5年	4
6年	0

諫早市	31
大村市	15
長崎市	7
雲仙市	6
西彼杵郡	1

3) 外来・手術室の看護

外来・手術室は一単位であり、前述の看護部の理念をもとに看護を提供し、児(者)への援助の充実を図っています。

外来では、診察・治療・検査時の介助をはじめ、次回の外来予約（診療・処置・検査等）や入院予約時の対応など医師・療法士・心理士・検査技師・診療放射線技師・病棟看護師等の多職種と連携を図りながら援助しています。

また、保護者支援として保健師・社会福祉士・保育士と連携を図り、地域での援助につなげています。手術担当者は、外来で行われる手術前の診療から同席し、入院後に行う術前訪問等、手術前から児(者)や家族と関わっています。プレパレーションに力を入れ不安の軽減に努めています。また、手術時は安全・安楽に努め、手術後の病室訪問までを医師や病棟看護師と連携を図りながら行っています。

○外来・手術室業務

外来	診療の介助 リハビリ前の診察介助 診療後の再診予約受付と調整 入院の受付 こどもの状況・心療に関する相談 ギプス巻き介助 処置介助 診療材料管理
手術	手術前の診療介助 手術中の介助 手術前後の訪問 中材業務



手術室

脳性麻痺・股関節脱臼・内反足・四肢変形などすべての小児整形外科疾患・外傷を対象として手術治療も行います。

4) 外来訓練

(1) 理学療法

〔目的〕

主に運動発達の遅れや運動障害のある子どもに対して、遊びや生活に必要な粗大運動能力（寝返る・起き上がるなどの姿勢変換能力、座る・立つなど姿勢保持能力、這う・歩くなどの移動能力）の向上を目指した治療や運動を行います。

重い運動障害を持つ子どもに対しては、日常生活を快適に過ごせるように、全身状態の改善・変形予防などの姿勢ケアを目指し治療を行います。また、家庭や学校などでの生活を快適・容易にするために、能力に適した椅子や車椅子・歩行器などの製作をお手伝いします。

〔対象〕

新生児から成人までと年齢は幅広く、中でも乳幼児から中学生までが多く、主な疾患は脳性麻痺、運動発達遅滞、脳炎後遺症、染色体異常、二分脊椎、脊椎側弯、骨形成不全症、発達性協調運動症、その他整形疾患などです。

〔スケジュール〕

- ・ 個別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制
- ・ プール療法 毎週木曜日の11：00～12：00

(2) 作業療法

〔目的〕

発達段階において何らかの困難さ・苦手さがある子ども達に対し、遊びを中心とした作業活動を通して、個々の子どもの発達課題や生活を考慮した治療を行います。また、障害があっても家庭や学校、社会で生き生きと生活できるよう指導、援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如多動症、発達性協調運動症等の発達障害児。知的発達症。染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症など肢体不自由児。

〔スケジュール〕

- ・ 個別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制

(3) 言語聴覚療法

〔目的〕

コミュニケーションや、摂食・嚥下機能に何らかの困難さや苦手さがある子どもたちに対し、コミュニケーション手段の獲得、言語能力の向上、安全な摂食・嚥下機能の獲得を目的として、評価、訓練、助言等の援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症、限局性学習症等の発達障害児、言語症や語音症などのコミュニケーション症、染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症などの肢体不自由児、聴覚障害。

〔スケジュール〕

・個 別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制

IV 地域連携

当センターは県内の療育支援の中核的役割を担う施設として、体制の充実・強化および地域支援を「障害児等療育支援事業」として実施してきました。

平成23年度に地域連携室を新設し、従来の地域との連携や支援を充実させ、相談窓口および外来・リハビリ予約業務等を一元化し、利用者へのサービス向上を目指しています。

※当センターにおける「障害児等療育支援事業」は在宅の障害児（者）の地域での生活を支えるため、療育拠点施設としての当センターの機能を活用して、療育支援体制の充実を図り、身近な地域で安心して暮らすための福祉の向上を目的としています。

1 訪問による支援（訪問療育相談支援事業）

① 巡回療育相談（実績一覧は資料編参照）

県立保健所や市町と連携しながら、当センターのスタッフが班を編成して、各保健所管内を巡回や家庭訪問により療育相談を行います。この相談の中で、当センター機能（外来受診、親子入院等）の紹介や地域の社会資源（医療機関、児童発達支援事業所、保育所・幼稚園、学校等）との連携をとることで、障害児の地域生活を支援します。

○実施回数：17回（延べ36日） 相談延べ件数152件

※この巡回療育相談の機会を利用し、地域で療育に携わる保健師・保育士等の療育関係者や保護者への研修会も開催しています。

② 関係機関訪問

当センターの療育を利用する児童が通う幼稚園・保育所・学校等を担当スタッフが訪問し、日常生活の様子を知ることにより、児童を取り巻く関係者と課題を共有し、当センターでの療育と地域での生活が一貫した支援の中で行われるよう取り組んでいます。

○訪問回数：17回（訪問先：学校3、幼稚園・保育所・こども園11、事業所3）

○派遣職種：保育士26名

2 外来療育等相談

外来時等に保護者や関係機関等から福祉制度、社会資源に関することや療育に関する相談などに応じています。

○相談対応：738件

3 地域生活支援（地域生活特別支援事業）

専門性が高く、市町での対応が困難な事例については、市町の求めに応じ、当センターの専門機能を生かした支援を行います。

○実績：28件（要保護児童地域対策協議会個別ケース検討会等出席）

4 県内の療育機関との連携や地域療育に関する啓発（地域療育支援事業）

①県内の診療・療育体制についての課題、連携のための方策等の協議

会 議 名	実 施 日	参 加 機 関
こどもセンター等関係機関連絡会	R6.11.14	オンライン形式で開催 長崎市障害福祉センター、長崎市障害福祉課、佐世保市子ども未来部、佐世保市子ども発達センター、長崎県こども家庭課、長崎県障害福祉課、こども医療福祉センター 7 機関 20 名
児童発達支援センター等連絡会	R6.7.5	集合形式で開催 児童発達支援センター（15 機関）、事業所（2 機関）、長崎市障害福祉課、佐世保市障がい福祉課、長崎県医療的ケア児支援センターつなぐ、長崎県発達障害者支援センターしおさい、長崎県こども家庭課、長崎県障害福祉課、こども医療福祉センター 24 機関 45 名

②地域療育関係機関の従事者への研修及び実習

研 修 ・ 実 習 名	対 象 者	実 施 日	参 加 者 数(延べ)
地域療育従事者等研修会	県・市町保健師等、障害児通園事業スタッフ	① R6.9.26～27 「小児発達編」 ② R6.10.28～29 「肢体不自由児編」	① 105 人 ② 45 人
地域療育短期実習	指導員、保育士、幼稚園教諭等	集団療育コース 18回 25日 幼児保育コース 3回 3日	52 人 5 人
障害児療育関係実習	障害児療育関係者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、指導員、保育士、その他）	集団療育見学実習 延べ14日	30 人

5 施設等への技術支援

支 援 内 容	支援対象	派遣職種・職員数(延)
関係機関への技術支援	学校 4回 保育所・幼稚園 2回 計 6回	派遣職員：理学療法士 2名 作業療法士 4名 言語聴覚士 4名 計 10名
(うち受診前技術支援)	〔学校 0回 保育所・幼稚園 0回 計 0回〕	〔 0名 〕
リハ・集団療育実施場面の見学受け入れ	学校 98回 保育所・幼稚園 14回 施設・事業所 30回 計 142回	対応職員：理学療法士 101名 作業療法士 23名 言語聴覚士 11名 保育士 7名 計 142名
研修会への講師派遣	社会福祉協議会 1回 学校 1回 事業所 1回 市町 1回 計 4回	派遣職員：心理士 2名 保育士 1名 言語聴覚士 1名 計 4名
	合計 152回	合計 156名

6 児童発達支援センター等機能強化事業

- ① 地域の中核となる児童発達支援センター職員の療育スキルの向上を目的とした技術支援や研修等を実施します。
- ② 療育機関や医療機関など発達支援の資源が少ない県北圏域、離島地区の療育スキル向上のため、技術支援や研修、および園訪問への同行支援を実施します。
- ③ 療育に関わる職員の療育スキル向上、事業所間の連携を図る場（こども支援会議等の地域のネットワーク）の構築への協力、アドバイザー参加、講師派遣を実施します。

【施設等への技術支援】

児童発達支援センター	事業所	保育所等	研修会	事業所 連絡会等	計
8回	2回	0回	0回	22回	32回

V 発達障害児（者）支援

平成17年4月1日施行された「発達障害者支援法」に基づき、こども医療福祉センター地域連携室相談支援班を発達障害者支援センター「しおさい」として位置づけ、発達障害児（者）及び家族等の支援を行っています（平成17年1月17日事業開始）。

平成28年5月の法改正により、発達障害児（者）やその家族等が身近な地域で支援が受けられるよう適切な配慮をするものと規定されたことから、地域支援体制の確立に向けて、「困難事例等への支援」や「支援機関の対応力の向上支援」などの専門的機能をさらに充実していく必要があります。

1. スタッフ

センター長（小児科医師）、副センター長（社会福祉職）

専門幹（社会福祉職）1名、主任主事（社会福祉職）1名、相談支援員2名、地域支援マネジャー2名（平成26年度～）

※センター長及び副センター長はこども医療福祉センター職員が兼務。

2. 支援対象者

①ASD（自閉スペクトラム症）、SLD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如・多動症）などの特有の発達障害を有する障害児（者）及びその家族

② ①を支援する人及び関係機関

3. 業務内容及び実績

		(年度)	R4	R5	R6
1. 相談支援・発達支援 (※下記2.を除く全てのケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	214	191	216
		延件数	349	481	740
	(2) 心理学的判定	実人数	3	8	9
	(3) 相談支援・発達支援に伴う情報共有（調整会議）	延件数	13	1	9
	(4) 相談支援・発達支援に伴う関係機関との連携	延件数	168	103	182
2. 相談支援・就労支援 (※就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	50	52	56
		延件数	401	469	547
	(2) 相談支援・就労支援に伴う情報共有（調整会議）	延件数	3	3	5
	(3) 相談支援・就労支援に伴う関係機関との連携	延件数	62	95	116
3. 機関コンサルテーション		延件数	102	70	61

○関係機関、民間団体等への研修（令和6年度）

研 修 名	内容(演題)等
発達障害相談支援 従事者育成研修 (初級) (オンライン開催)	対象：市町職員、県福祉事務所職員 ※ 障害福祉、母子保健、子育て支援、生活保護、労働等の発達障害児者支援に携わる部署の職員 内容：・発達障害の基本的理解と医療的支援 ・発達障害者支援センターの機能と役割 ・発達障害のある人に対する相談支援の基本 ・家族の体験談
発達障害相談支援 従事者育成研修 (中上級)	対象：市町の委託相談支援事業所。基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センター、県保健所職員 内容：5回シリーズ ・発達障害者支援施策や取組について ・発達障害のアセスメントと支援の基本 ・就労や就労定着に向けての支援 ・発達障害と精神医療 ・地域における支援体制の構築
支援力向上 定期勉強会	対象：障害福祉サービス事業所職員 内容：4回開催 ・「発達障害の特性と対応の基礎」（講義） ・「事例検討会（発達特性事例）」（グループワーク） ・「事例検討会（性的問題行動事例）」（グループワーク） ・「事例検討会（強度行動障害事例）」（グループワーク）
研修会等への 講師派遣(17箇所)	鹿町工高「発達障害を理解しよう」 大村市自立支援協議会専門研修会「発達障害者支援の方法」 ハローワーク諫早「発達障害について理解を進める」 佐世保市「発達障がい者への支援について」 西海市学童保育連協「発達特性のある子どもへの支援を考える」 活水大学現地実習「発達障害者支援センターしおさいの取り組み」 県警察学校「発達障害について」 長崎こども・女性・障害者支援センター「発達障害の理解とその対応」 諫早東特支学校「発達障害のある本人や家族、関係機関への幼少期から成人までの支援の在り方について」 早岐警察署「発達障害について」 長崎市中央総合事務所「発達障害のある方への支援について」 県教育庁「発達特性のある児童生徒と性」 雲仙市地域自立支援協議会「『発達障がい』と進路・就労について」

	諫早市こどもデイネット「発達障害と性」 MVW 総合サポート(株)「発達障害について」 長崎歴史博物館「発達障害のある子どもへの関わり方について」 (株)フジパン長崎工場「就業支援勉強会」※アドバイザー
--	--

○普及啓発研修(令和6年度)

研 修 名	内 容(演題)・講師等
しおさいセミナー	講演 『青年期・成人期における 本人の自己理解を見据えた支援のあり方』 講師 吉田 ゆり（九州大学基幹教育院 教授） 対談者 吉田 ゆり（九州大学基幹教育院 教授） 当事者家族2名
しおさい ミニセミナー	講演 『性における対人関係プログラムの実施～すてきな大人のマナーについて～』 講師 宮原 春美（長崎大学名誉教授）

Ⅵ 栄養関係業務

入院児に対して各児の咀嚼能力や摂取能力に応じた形態別・栄養量別食事を提供しています。

(表①)

親子棟及び病棟入院児・外来患者に対する栄養指導（相談）を実施しています。（表②③）

季節の行事食及び年３回のお楽しみメニューを提供しています。（写真）

① 入院児の形態別・栄養量別食数（表①）

区分		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度	
		月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計
※ 幼児食	常※	247	2,966	129	1,543	227	2,727	214	2,569
	粗※	56	671	114	1,369	32	384	37	448
	中※	35	418	80	963	25	295	73	880
	極※	10	118	13	154	9	109	29	345
	小計	348	4,173	336	4,029	293	3,515	353	4,242
※ 小児食（小）	常	325	3,906	150	1,803	177	2,123	150	1,799
	粗	18	210	39	467	33	397	47	562
	中	41	494	21	256	12	150	7	88
	極	0	1	0	0	7	83	39	470
	小計	384	4,611	210	2,526	229	2,753	243	2,919
小児食（中）	常	390	4,680	277	3,319	444	5,324	233	2,791
	粗	0	4	8	100	7	82	4	42
	中	14	169	37	448	3	38	2	21
	極	21	253	0	0	11	130	1	15
	小計	425	5,106	322	3,867	465	5,574	240	2,869
小児食（大）	常	479	5,747	365	4,380	419	5,035	574	6,892
	粗	0	0	0	0	10	116	0	0
	中	2	19	3	35	2	24	2	28
	極	0	0	5	61	0	0	2	20
	小計	481	5,766	373	4,476	431	5,175	578	6,940
常食計		1,638	19,656	1,241	14,898	1,418	17,017	1,414	16,970
特 食	術後食	0	0	0	0	0	0	0	0
	カルシウム	0	0	0	0	0	0	0	0
	離乳食	34	409	25	297	3	40	4	49
	減量食	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペースト・ソフト食	93	1,116	94	1,134	99	1,185	63	756
	貧血・造血食	29	347	0	0	1	6	0	0
	高脂血症	0	0	0	0	0	0	0	0
	高度肥満	49	582	43	510	45	544	46	547
	糖尿病食	0	0	0	0	0	0	0	0
	濃厚流動	0	0	4	52	0	0	0	0
	他	178	2,138	148	1,778	92	1,102	81	968
	特食計	383	4,592	314	3,771	240	2,877	194	2,320
絶食		14	167	82	980	15	179	103	1,238
外泊		502	6,029	393	4,710	457	5,492	475	5,701
合 計		2,537	30,444	2,030	24,359	2,130	25,565	2,186	26,229

※注釈

○食形態分類

常（常食）：特に刻まない普通の食事

粗（あらきざみ）：1.5cm位の大きさ

中（中きざみ）：1cm位の大きさ、幼児用スプーンですくって食べられる程度

極（極小きざみ）：0.5cm位の大きさ

○幼児食は、幼児食(幼少)と幼児食(幼)の合計。

○小児食（大）には、小児食（特大）を含む。

※栄養基準による分類

区分	幼児食(幼少)	幼児食(幼)	小児食(小)	小児食(中)	小児食(大)	小児食(特大)
年齢の目安	1～2	3～5	6～9	10～11	12～15 女	12～18 男
				16～18 女		
エネルギー(kcal)	1100	1400	1600	1800	2000	2300
たんぱく質(g)	35	50	65	70	75	85
脂質(g)	30	40	50	55	60	70
糖質(g)	170	210	220	250	290	300
カルシウム(mg)	450	600	600	700	700	900
鉄分(mg)	5	6	8	9	10	10

②親子棟における栄養指導(相談)

親子棟入院児に対して、昼食時に管理栄養士が栄養指導(相談)を実施しています。同時に、調理員が調理方法や食事形態等の希望を聞き取り、食事作りに反映しています。

『おやつは、幼児にとっては第4の食事』という考えで、できるだけ手作りおやつを提供しています。

親子棟における栄養指導(相談)件数（実人員）（表②）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6 年度	10	5	10	7	5	9	6	7	10	5	8	9	91
R5 年度	8	6	7	11	8	10	10	4	6	6	10	14	100
R4 年度	10	9	9	14	13	7	13	4	8	10	10	11	118
R3 年度	8	2	9	10	10	8	11	8	9	8	8	8	99
R2 年度	4	4	13	11	13	6	10	9	8	9	8	13	108

③栄養指導(相談)

医師の栄養指導依頼票により、予約制で栄養指導を行っています。

外来患者及び病棟入院児への栄養指導(相談)件数(表③)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
栄養指導数	10	12	15	11	26

④行事食・お楽しみメニューの実施

節分・ひな祭・子どもの日・七夕など、行事にあわせ、季節を盛り込んだメニューを提供しています。また、1学期の遠足にお弁当、終業式にお楽しみメニュー、2学期の終業式にクリスマスメニュー、3学期のエール会にお祝膳を提供しています。

七夕のメニュー



お弁当



お楽しみメニュー



クリスマスメニュー



お祝い膳



VII 薬局・検査・X線撮影

I 薬局業務

- ①調剤 ②注射薬の供給 ③血液業務 ④外来・入所児の薬歴管理
 ⑤院内製剤 ⑥医薬品の品質管理 ⑦向精神薬・麻薬・毒薬の管理
 ⑧医薬品の発注 ⑨消毒薬の供給 ⑩医薬品の情報収集・提供

(1) 令和6年度月別調剤件数

区分	外来処方箋			入院処方箋			合 計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
4月	26	33	416	119	198	1,971	145	231	2,387
5月	20	24	234	128	220	2,294	148	244	2,528
6月	24	35	458	116	190	1,888	140	225	2,346
7月	19	24	283	142	255	3,280	161	279	3,563
8月	19	23	205	104	162	1,866	123	185	2,071
9月	20	32	451	97	155	1,625	117	187	2,076
10月	17	17	180	133	202	1,996	150	219	2,176
11月	18	26	397	151	239	2,630	169	265	3,027
12月	18	20	204	150	318	3,724	168	338	3,928
1月	12	14	303	103	216	2,538	115	230	2,841
2月	13	15	173	84	177	2,280	97	192	2,453
3月	23	29	391	111	222	2,771	134	251	3,162
計	229	292	3,695	1,438	2,554	28,863	1,667	2,846	32,558

(2) 令和6年度月別麻薬・注射箋・院外処方箋枚数

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋
4月	1	9	833
5月	2	7	843
6月	3	9	855
7月	2	16	908
8月	3	7	755
9月	2	8	821
10月	2	8	888
11月	1	6	852
12月	2	10	838
1月	3	10	827
2月	2	12	744
3月	2	10	862
計	25	112	10,026

(3) 令和6年度血液使用状況

実績なし

(4) 年度別調剤件数等

区分	外来処方箋			入院処方箋			合計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
令和2年度	307	535	7,054	1,253	2,201	25,222	1,560	2,736	32,276
令和3年度	213	311	4,282	1,341	2,074	23,501	1,554	2,385	27,783
令和4年度	291	449	5,992	1,250	2,470	28,288	1,541	2,919	34,280
令和5年度	274	394	4,406	1,439	2,855	33,416	1,719	3,249	37,822
令和6年度	229	292	3,695	1,438	2,554	28,863	1,667	2,846	32,558

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋 (a)	外来処方箋 (b)	院外処方箋率 (a/(a+b)*100)
令和2年度	38	130	8,714	307	96.6
令和3年度	40	124	9,206	213	97.7
令和4年度	31	128	9,547	291	97.0
令和5年度	13	118	9,932	274	97.3
令和6年度	25	112	10,026	229	97.8

2 臨床検査業務

生化学検査や血液検査などの検体検査は外部委託している。主な検査業務は次のとおり。

- 1) 脳波検査（一般及び睡眠賦活） 2) 心電図検査（自律神経検査を含む）
3) 脳波ビデオモニタリング検査 4) その他（感染症迅速検査、血球数・分類検査等）

（1）令和6年度 月別検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波検査	16	7	7	12	12	10	4	6	8	4	4	14	104
聴性脳幹反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱画像検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誘発筋電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心電図	12	13	11	17	13	11	8	9	8	6	9	14	131
（12誘導）	(7)	(7)	(4)	(12)	(9)	(4)	(2)	(7)	(3)	(5)	(6)	(6)	(72)
（CVR-R）	(5)	(6)	(7)	(5)	(4)	(7)	(6)	(2)	(5)	(1)	(3)	(8)	(59)
肺機能検査	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳波病棟モニタリング	1	2	5	4	1	1	0	0	1	1	1	3	20
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	29	23	23	33	26	22	12	15	17	11	14	31	256

（2）年度別検査件数

検査項目 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
脳波検査	219	193	149	139	104
聴性脳幹反応	2	0	0	1	0
熱画像検査	0	0	0	130	0
誘発筋電図	1	1	0	43	0
心電図	137	124	144	177	131
（CVR-R）	(62)	(57)	(65)	(75)	(59)
肺機能検査	2	3	4	1	1
脳波病棟モニタリング	58	47	35	36	20
その他	51	71	26	26	0
合計	470	439	358	553	256

3 X線撮影業務

(1) 年度別撮影等枚数

区 分 \ 年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一 般 撮 影		3,704	3,641	2,824	2,607	2,333
ポータブル	病 棟	33	31	7	31	4
	手術室	219	190	68	190	97
透 視		2	0	0	0	0
画像処理(CT除)		167	221	162	217	182
合 計		4,125	4,083	3,061	3,045	2,616

(2) 月別業務件数(令和6年度)

(単位: 件)

月別 区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影		124	93	96	157	142	90	91	101	124	110	90	127	1,345
ポータブル	病 棟	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	手術室	2	2	4	2	3	2	2	1	2	3	2	1	26
手術室(イメージ)		2	2	4	2	3	2	2	1	2	0	0	1	21
透 視		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
CT		1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
画像処理(CT除く)		16	12	17	36	13	15	18	24	15	8	7	1	182
合計		147	112	122	197	162	109	113	127	143	121	99	133	1,585

(3) 月別X線撮影部位別撮影枚数(令和6年度)

(単位: 回)

月別 区分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
単 純 撮 影	胸 部	一 般 撮 影	4	6	2	7	8	3	3	5	4	4	7	4	57
	腹 部	一 般 撮 影	1	3	1	5	2	0	0	2	0	1	1	0	16
	全 脊 椎	一 般 撮 影	11	12	16	19	21	15	14	9	15	8	16	14	170
	骨盤～ 大腿	一 般 撮 影	0	0	2	0	3	0	0	1	0	0	3	0	9
	骨盤～ 下肢	一 般 撮 影	11	11	10	17	21	8	8	18	16	16	10	6	152
	肩～上肢	一 般 撮 影	0	0	2	6	0	0	2	0	0	0	0	0	10
	股 関 節	一 般 撮 影	73	48	50	77	61	42	39	57	79	57	41	59	683
		ポータブル	2	13	0	1	0	10	10	0	0	10	0	1	47
	足 部	一 般 撮 影	72	93	65	86	66	71	79	56	56	99	58	17	818
	そ の 他	一 般 撮 影	39	16	35	43	53	38	29	19	51	10	31	54	418
ポータブル		4	18	5	2	5	2	2	2	4	4	4	2	54	
透 視			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	一般撮影		211	189	183	260	235	177	174	167	221	195	167	154	2,333
	ポータブル		6	31	5	3	5	12	12	2	4	14	4	3	101
合 計			217	220	188	263	240	189	186	169	225	209	171	157	2,434

VIII 心理業務

心理業務では、6名の心理士（常勤4名、非常勤2名）が、外来及び病棟・親子棟において心理検査、プレイセラピーやカウンセリング等の心理療法（非常勤1名は小児心療科中心）、思春期の集団心理教育（ソーシャル・スキル・トレーニング）を行っています。また、保護者に対しては、ペアレント・トレーニングの実施や、ペアレント・トレーニングに共通する中核的な内容の講話、子育てに関する心理相談を行っています。その他、医師、保育士等の他職種と連携しながら集団療育に従事したり、検査結果について、検査・評価報告書を作成しています。児童の知能・発達検査の件数や検査・評価報告書作成の件数は年々増加傾向にあります。

①年度別心理検査件数

年度\検査	遠城寺	田中ビネ	K式	WISC	WAIS	TOM	LD評価	K-ABC	その他	合計
R2年度	43	28	371	538	18	15	162	81	394	1,650
R3年度	38	42	343	627	19	21	143	59	355	1,647
R4年度	18	28	418	610	11	20	118	55	346	1,624
R5年度	7	24	467	664	23	12	123	33	392	1,745
R6年度	12	24	482	610	14	10	96	37	341	1,626

②年度別心理療法・心理相談人数

（単位：人数）

年度\種別	心 理 療 法		心 理 相 談	
	計	（再掲） SST	計	（再掲） ペアトレ
R2年度	567	—	120	18
R3年度	575	116	244	120
R4年度	568	100	262	143
R5年度	482	86	255	110
R6年度	556	155	260	123

（注1）R3年度より、相談人数（延べ人数）で整理して計上。

（注2）R3年度より、「心理療法」の「（再掲）SST」を計上。「（再掲）SST」については、思春期の集団心理療法（ソーシャルスキルトレーニング等）と個別で実施したソーシャルスキルトレーニング等に参加した延べ人数を計上。

（注3）「心理相談」の「（再掲）ペアトレ」については、保護者に対して集団及び個別で実施した延べ人数を計上。尚、ペアレントメンター講習会に参加した保護者も含めて計上。

③検査・評価報告書（診療情報提供書）作成件数

年度\提供先	計（単位：件数）
R 2 年度	834
R 3 年度	772
R4 年度	850
R5 年度	920
R6 年度	1,026

（注 1）R 6 年度より、診療情報提供書の名称を、検査・結果報告書に改名。

（注 2）提供先は保護者に統一し、関係機関は保護者に提出した内容を共有。

研究・実習等

Ⅰ. 研究発表・講演・著作等

①医局部門

○小柳 憲司

論文：「一般外来で診る小児心身症—専門医紹介までにできること」

日本医事新報 No.5220、2024.5.11

○小柳 憲司

講演：「不登校について知ろう—不登校の経過と関わる疾患について」

令和6年度長崎市立伊王島小中学校校内研修、長崎市、2024.7.22

○小柳 憲司

記念講演：「不登校の子どもたちをどのように理解し関わるか—小児医療と教育現場の実践から」

第30回日本学校教育相談学会九州・沖縄地区研修会、福岡市、2024.11.17

○小柳 憲司

講義：「うちの子、学校に行かないんです。どうしたらいいんでしょうか？」

令和6年度長崎市療育支援研修会、長崎市、2024.11.29

○小柳 憲司

講演：「これからの不登校を考える—小児心療医から見た不登校支援について」

学校心理士九州・沖縄ブロック研修会、長崎市、2024.12.8

○小柳 憲司

シンポジウム：「児童・青年期によく見られる心身症 2. 起立性調節障害と不登校」

第64回日本心身医学会九州地方会、福岡市、2025.2.8

○小柳 憲司

講演：「身体症状を伴う不登校」

令和6年度（第45回）長崎県医師会学校保健研修会、長崎市、2025.2.11

○小柳 憲司

講義：「日常的なトラウマと付随する不安へのプライマリケアでのアプローチ」

日本小児科医会カウンセリング実習（広島）、広島市、2025.2.23

○山下 未央、森山 薫、林田 拓也、井上 大嗣、松尾 光弘

学会発表：「MPHとATXの併用からLDX単剤への変更で夕方以降の行動が改善した3例」

第66回日本小児神経学会学術集会、名古屋、2024.5.30

○森山 薫

講演：「心に悩みや不安を抱えた児童生徒への適切な対応について」

第2回幼・小・中学校生活指導主任、生徒指導主事合同研修会、長崎、2024.11.12

○森山 薫、林田 拓也、井上 大嗣、山下 未央、松尾 光弘

学会発表：「小児患者に対する長時間ビデオ脳波検査による皮膚障害の予防」

第66回日本小児神経学会学術集会、名古屋、2024.5.30

○北島 翼

論文：「小児心身医学分野で求められている診療報酬：学会会員向けアンケート結果から」

子どもの心とからだ、33巻4号、p512-514、2025年

○北島 翼、岩波 順平、大谷 良子、井上 建、菅原 彩子、服部 紀代、高宮 静男、鈴木 眞里、作田 良一

原著論文：「学校現場で養護教諭が経験した摂食障害関連事例の実態調査」

日本摂食障害雑誌、4巻1号、p13-25、2024年

○北島 翼、藤井智香子、細木瑞穂、松原直己、柳本嘉時、岡田あゆみ、片山 威

ガイドライン：「小児科医のための不登校診療ガイドライン」

子どもの心とからだ、33巻4号、p567-595、2024年

○北島 翼

学会発表：「小児心身医学分野で求められている診療報酬：学会会員向けアンケート結果から」

第42回日本小児心身医学会学術集会、指定演題プログラム、東京、2024.9.20

○北島 翼、長濱 輝代、細澤 麻里子、田中 恭子

学会発表：「過去10年間の日本小児心身医学会雑誌における学術的研究の現状と課題」

第42回日本小児心身医学会学術集会、一般演題、東京、2024.9.20

○北島 翼（執筆分担者）、作田 亮一（監修）、大谷 良子、井上 建（編集）

書籍：「小児科外来で診る子どものこころプライマリケア診療ガイドブック」

診断と治療社、東京、2024年

○北島 翼

講演：「児童思春期摂食症の概要」

長崎市小児科医会研修会、長崎、2024.7.18

○北島 翼（分担執筆者）、荻原 かおり、鈴木 太、大谷 良子、井上 建、井口 敏之、重安 良恵、藤井 智香子、岡田 あゆみ、作田 亮一

著書：「はじめての FBT 実践ガイドー神経性やせ症に対する家族をベースとした治療（Family-Based Treatment）実践ガイド」

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/pdf/manual_fbt.pdf（2025.5.11 閲覧）

令和 3～5 年度厚生労働科学研究費（研究代表者 中里道子）、令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金（研究代表者 中里道子）

②看護部門

○本嶋 りさ：講義「発達障害をもつ小児と家族の看護」

長崎県立シーボルト校、長与町 R6.7.2

○中村 純二：講義「効果的な体位ドレナージ方法(聴診・触診) 呼吸介助(スライディング)実演」

ラオフレンズ小児病院職員 所内におけるリハ専門職研修 R6.10.25

③リハビリ部門

○井口 賢：「装具による圧迫創傷（褥瘡）の防止について」

褥瘡防止対策委員会研修会 R6.6.18

○毎熊 美佳：講義「理学療法士から見た障害のあるこどもの豊かな保育を目指して」

地域療育短期実習 R6.9.10

○前田 隼：講義「人間発達学」

こころ医療福祉専門学校 長崎市 R6.5～6

○前田 隼：講演「最新の上田法について」

第31回日本上田法治療研究会学術集会 沖縄県 R6.11.9～10

○前田 隼：講義・実技指導「膜と結合組織」

上田法認定講習会上級コース／インストラクター育成コース

愛知県 R6.7.13～15

○前田 隼：発表「リハ専門職研修報告 LFHC（ラオフレンズ小児病院）」

リハビリテーション科発表会 R7.2.12

○前田 隼、毎熊 美佳、本嶋 裕幸、琴岡 日砂代：学会発表

「GMFCS レベルⅢ・Ⅳ・CFCS レベルⅣ・Ⅴの CP 児に対する筋力増強トレーニングの経験」

第69回全国肢体不自由児療育研究大会 沖縄県 R6.10.3～4

- 前田 隼：講義「みんなで作る支援グッズ」
地域療育従事者研修会 R6.10.28～29
- 前田 隼：実技指導「第64回上田法治療認定講習会 第45回上田法認定講習会（多職種）」
島原市 R6.10.12～14
- 前田 隼：実技指導「上田法フォローアップ研修会」 島原市 R7.3.2
- 琴岡 日砂代：講義「作業療法総合実習2」
長崎リハビリテーション学院 大村市 R6.4.6
- 琴岡 日砂代：講義「PEERS 伝達講習会」（所内） R6.4.17
- 琴岡 日砂代：グループ指導「日本感覚統合学会 認定講習会 B(解釈)コース」
日本感覚統合学会 大阪府 R6.7.14-15
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 入門講習会基礎コース」
日本感覚統合学会 Web R6.7.20
- 琴岡 日砂代：講義「PEERS について」
諫早東特別支援学校 夏季研修会 R6.8.1
- 琴岡 日砂代：実技指導「日本感覚統合学会 認定講習会 A(評価)コース」
日本感覚統合学会 福岡県 R6.9.13-16"
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 入門講習会応用コース」
日本感覚統合学会 Web R6.11.10
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 FD 研修会」
日本感覚統合学会 Web R.11.23
- 琴岡 日砂代：講義「日本感覚統合学会 入門講習会基礎コース」
日本感覚統合学会 Web R7.1.19
- 小田 弘海：講義「子どもの行動と感覚統合」
見学実習キッズさくら(所内) R6.5.24

- 小田 弘海：講義「こどもの行動と感覚統合」
地域療育従事者研修会（所内） R6.9.27
- 小田 弘海：講義「生活を豊かにするための関わり方」
地域療育従事者研修会（所内） R6.10.29
- 小田 弘海：報告「県北・離島地区における発達障害児地域医療体制整備事業の成果と報告、
今後の方向性について」
発達障害児地域医療体制整備事業（上五島地区） R7.1.16
- 小田 弘海：報告「県北・離島地区における発達障害児地域医療体制整備事業の成果と報告、
今後の方向性について」、情報交換会「感覚統合理論に基づいた行動の理解と支援について」
発達障害児地域医療体制整備事業（県北地区） R7.1.20
- 小田 弘海：報告「県北・離島地区における発達障害児地域医療体制整備事業の成果と報告、
今後の方向性について」
発達障害児地域医療体制整備事業（五島地区） R7.1.24
- 小田 弘海：報告「県北・離島地区における発達障害児地域医療体制整備事業の成果と報告、
今後の方向性について」
発達障害児地域医療体制整備事業（対馬地区） R7.1.29
- 小田 弘海：報告「県北・離島地区における発達障害児地域医療体制整備事業の成果と報告、
今後の方向性について」
発達障害児地域医療体制整備事業（壱岐地区） R7.2.14
- 喜々津 裕美：講義「子どもの摂食・嚥下について」
令和6年度子どものリハビリ研究会 佐世保市 R7.1.26
- 鶴島 禎子：講義「ことばの発達と行動面の理解 楽しく子どもと関わるために」
見学実習キッズさくら(所内) R6.5.24
- 鶴島 禎子：講義「ことばの発達とコミュニケーション 関わりのポイントを押さえよう！」
地域療育従事者研修会（所内） R6.9.27

○鶴岡 禎子：講義「ことばの発達とコミュニケーション 楽しいやりとりと食事のために」
地域療育従事者研修会（所内） R6.10.29

○鶴岡 禎子：講義「遊びながら発話を促すテクニック」
諫早こどもデイネット事業所職員研修会 R7.1.28

○藤田 紋美：講義「発達障害を有する方への食事支援」
長崎県栄養士会長崎支部スキルアップ研修会 オンライン R6.12.4

○藤田 紋美：講義「子どもの食べる機能と発達について」
給食施設における食事の提供に係る担当者研修会 西彼保健所 R7.2.28

○濱 瑞希：症例発表「読み書きに苦手さを持つこども達の支援の現状と課題を考えよう」
長崎県言語聴覚士会 小児研修会（出島メッセ） R7.2.1

④地域連携室部門

地域支援班

○松浦 恵子：講義「家族支援について～障害受容の視点から～自身の体験から～」
地域療育従事者研修会（所内） R6.9.27

○橋本 摩野：ワークショップ「様子見カードとサポートブック」
地域療育従事者研修会（所内） R6.9.27

○橋本 摩野：講義「発達障害児の理解と支援」
R6 年度地域療育短期実習（市町・事業所コース）基礎編（所内）
R6.6.4、7.9、8.6、10.8、12.10、R7.1.28、2.18

○橋本 摩野：講義「行動の理解と療育プログラム」
R6 年度地域療育短期実習（市町・事業所コース）応用編（所内）
R6.9.10、11.12

○橋本 摩野：講義「発達障害児の理解と支援」
R6 年度地域療育短期実習（保育所・幼稚園コース）（所内）
R6.6.27、7.18、8.1、9.19、10.17、11.7、12.5、R7.1.23、2.13

○橋本 摩野：講義「こどもの困り感を考える」
島原市社会福祉協議会あいあい 島原市 R6.7.26

⑤相談支援班

○相川 恵理：講義「発達障害を理解しよう！」

長崎県立鹿町工業高等学校 佐世保市 R6.4.25

○相川 恵理：講義「発達障害者支援の方法」

大村市自立支援協議会専門研修 大村市 R6.5.16

○栗田 薫：講義「発達障害について理解を進める」

令和6年度高等学校進路指導主事会議 諫早市 R6.5.22

○相川 恵理：講義「発達障がい者への支援について」

佐世保市障害福祉サービス事業研究所 佐世保市 R6.6.5

○相川 恵理：講義「発達特性のある子どもへの支援を考える」

西海市学童支援員研修会 西海市 R6.6.13

○栗田 薫：講義「発達障害者支援センターしおさいの取り組み」

活水女子大学健康生活学部子ども学科（所内） R6.8.16

○栗田 薫：講義「発達障害について」

長崎県警察学校新人研修 長崎市 R6.8.28

○栗田薫、相川恵理：講義「発達障害の理解とその対応」

長崎県精神保健福祉センター（所内） R6.9.9

○栗田 薫：講義「発達障害のある本人や家族、関係機関への幼少期から成人までの支援の在り方について」

諫早東特別支援学校 諫早市 R6.9.26

○栗田 薫：講義「発達障害について」

早岐警察署 佐世保市 R6.10.9

○相川 恵理：講義「発達障害のある方への支援について」

長崎市中央総合事務所（福祉事務所） 長崎市 R6.11.21

○相川 恵理：講義「発達特性のある児童と性」
長崎県教育庁児童生徒支援課 長崎市 R6.12.20

○栗田 薫：講義「『発達障がい』と進路・就職について」
雲仙市地域自立支援協議会 雲仙市 R6.12.25

○相川 恵理：講義「発達障害と性」
諫早市こどもデイネット 諫早市 R7.2.4

○相川 恵理：講義「発達障害について」
MVW総合サポート株式会社 長崎市 R7.2.21

○栗田 薫：講義「発達障害のある子どもへの関わり方について」
長崎歴史文化博物館 長崎市 R7.3.3

○相川 恵理：コーディネーター「株式会社九州フジパン長崎工場『就業支援勉強会』」
長崎障害者就業・生活支援センター 大村市 R7.3.7

⑥育成部門

○小西尚代：講義「当センターにおける幼児保育について」
地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 R6.10.29

○丸田 潤：講義「発達に特性がある子の理解と対応について」
令和6年度地域療育従事者研修会 小児発達編、R6.9.27

⑦心理部門

○大田 一人：講義「気になる子どもへの支援について 保護者支援（ペアレント・トレーニングを中心に）」
壱岐地域療育者研修会 R6.10.10

○大田 一人：講義「怒りのコントロールが難しい子どもへの支援について」
島原特別支援学校（島原市） R6.10.22

○大田 一人：講義「気になる子どもへの支援について 保護者支援（ペアレント・トレーニングを中心に）」
地域療育従事者研修会 小児発達編 R6.10.29

○大田 一人：講義「保護者への支援について」

発達障害児地域医療体制整備事業（対馬） R7.1.29

○大田 一人：講義「発達が気になるこどもの保護者支援について」

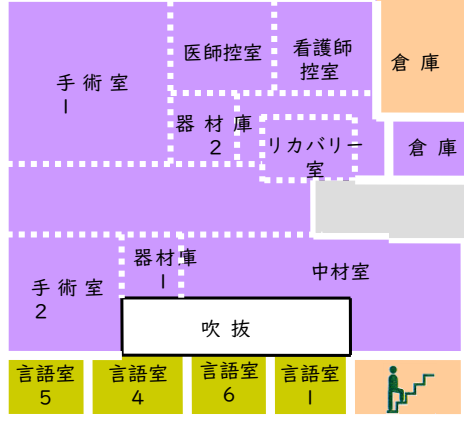
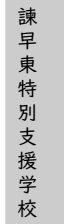
平戸市子育て講演会 R7.2.16

2. ボランティア活動

ボランティア受入 令和6年度実績 0件

3. 実習受入(過去5年間)

職種	学 校 名	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度
保育士	長崎女子短期大学	2	2	2	2	2
	長崎短期大学	2	1	1	2	
	活水女子大学	1	2	3	1	1
	長崎医療こども専門学校					1
インターンシップ	長崎県立大学	1				
	長崎大学	3				
理 学 療法士	長崎大学医学部保健学科	1	3	3	2	2
	長崎リハビリテーション学院	6	4	3	3	2
	長崎医療技術専門学校	2	7	4	2	2
	こころ医療福祉専門学校	2	5	2	2	3
作 業 療法士	長崎大学医学部保健学科	14	2	2	2	2
	長崎医療技術専門学校	1	5	3	2	2
	長崎リハビリテーション学院		1	3	2	2
言 語 聴覚士	九州保健福祉大学	1	2	1	1	2
	福岡国際大学			1		
	国際医療福祉大学	1	1	2	1	2
	長崎リハビリテーション学院	2	3	3	5	2
公認心理師	長崎純心大学大学院					1
看護師	活水大学看護学部	73	43	70	30	
	活水大学子ども学科	9	3	8	7	14
	向陽高校衛生看護専攻科	41	23	40	39	39
	島原市医師会看護学校	39	33	38	44	34
	長崎大学医学部保健学科					4
合計		201	140	189	147	117



【資料編】

(1) 入院患者数の推移

年 度	病床数	延患者数	1日平均 患者数	病床利用率
昭和47	160	55,937	152.8	95.5
48	160	52,406	143.6	89.7
49	160	47,876	131.2	82.0
50	160	45,648	125.1	78.2
51	160 (124)	44,477	121.5	76.0 (98.0)
52	160 (124)	44,513	122.0	76.2 (98.3)
53	160 (124)	35,731	97.9	61.2 (78.9)
54	160 (124)	34,774	95.3	59.5 (76.8)
55	160 (124)	34,149	93.3	58.3 (75.2)
56	160 (124)	33,759	92.5	57.8 (74.6)
57	160 (124)	36,916	101.1	63.2 (81.6)
58	160 (110)	37,961	104.0	65.0 (94.5)
59	160 (110)	33,552	91.7	57.3 (83.3)
60	110	32,483	89.0	80.9
61	110	30,919	84.7	77.0
62	110	32,688	89.6	81.4
63	110	31,442	85.9	78.1
平成元	110	31,027	85.0	77.3
2	110 (80)	28,346	77.7	70.6 (97.1)
3	110 (80)	26,629	73.0	66.3 (91.2)
4	110 (80)	21,907	59.9	54.4 (74.8)
5	110 (80)	23,756	65.1	59.2 (81.4)
6	110 (80)	24,400	66.8	60.8 (83.6)
7	110 (80)	23,862	65.4	59.4 (81.7)
8	110 (80)	23,086	63.1	57.3 (78.8)
9	110 (80)	22,538	61.7	56.1 (77.2)
10	110 (80)	21,323	58.4	53.1 (73.0)
11	110 (80)	18,840	51.6	46.9 (64.5)
12	110 (80)	18,960	51.8	47.1 (64.8)
13	60	17,387	47.6	79.4
14	60	17,853	48.9	81.5
15	60	15,722	43.1	71.8
16	60 (53)	13,708	37.5	62.4 (70.7)
17	60	14,918	40.9	68.1
18	60	16,315	44.7	74.5
19	60	15,086	41.2	68.7
20	60	14,437	39.6	65.9
21	60	13,364	36.6	61.0
22	60	13,226	36.2	60.4
23	60	14,179	38.7	64.6
24	60	13,373	36.6	61.1
25	60	12,635	34.6	57.7
26	60	12,475	34.2	57.0
27	60	13,239	36.2	60.3
28	60	12,951	35.5	59.1
29	60	12,346	33.8	56.4
30	60	11,060	30.3	50.5
令和元	60	12,433	34.0	56.6
2	60	11,596	31.8	52.9
3	60	10,756	29.5	49.1
4	60	8,622	23.6	39.4
5	60	9,425	25.8	42.9
6	60	9,317	25.5	42.5

(注1) 病床数は許可病床数で、() 内の数字は実働稼働病床数。

(注2) 病床利用率は許可病床数に対する利用率で、() 内の数字は実働稼働病床数に対する利用率。

(2) 外来患者数の推移

年 度	延 患 者 数		1日平均患者数	
	本 所	通園部	本 所	通園部
昭和47	2,607		8.8	
48	2,306		7.8	
49	2,823		9.5	
50	2,783		9.4	
51	3,130		10.5	
52	3,211		10.8	
53	3,959		13.3	
54	4,627		15.4	
55	5,749		19.4	
56	7,599		25.6	
57	8,395		28.3	
58	8,510	1,406	28.6	4.7
59	9,125	2,150	30.9	7.2
60	9,119	2,055	30.7	6.9
61	9,207	2,332	31.1	7.9
62	9,458	2,509	31.7	8.5
63	9,083	2,308	30.7	7.7
平成元	10,343	1,650	35.0	5.6
2	13,056	1,682	44.6	5.7
3	12,158	1,893	41.4	6.5
4	9,890	1,523	33.8	5.1
5	10,578	2,085	43.4	7.1
6	10,903	2,177	44.5	8.9
7	11,272	2,220	45.8	9.1
8	10,864	2,175	44.3	8.8
9	11,083	1,958	45.2	8.0
10	11,121	1,931	45.4	7.9
11	11,473	1,832	47.0	7.5
12	12,484	1,773	51.0	7.3
13	17,369	1,539	40.9	6.3
14	19,621	* 637	80.0	5.1
15	20,700		85.0	
16	20,812		85.6	
17	22,575		95.7	
18	24,636		100.6	
19	25,564		104.3	
20	25,995		107.0	
21	27,165		111.8	
22	27,025		110.8	
23	26,460		108.4	
24	26,620		109.1	
25	28,804		118.0	
26	28,317		116.1	
27	28,757		118.3	
28	29,200		120.2	
29	29,438		120.6	
30	29,461		120.7	
令和元	29,610		123.4	
2	29,872		121.4	
3	28,964		119.7	
4	29,585		121.7	
5	30,555		125.2	
6	30,978		127.5	

(注) *は平成13年9月末で通園部廃止のため、4～9月までの実績

(3) 入所・入院患者の病類別人員 (毎年10月1日現在)

(単位:人)

病類\年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
脳性麻痺	10		2	1	1	3	3	5		1	4
先天性股関節脱臼	1	1	5	3		4		2	4	3	
骨系統疾患	3	3	1	2	1	3	1	2		4	1
ペルテス病	3	4	3	2	2						
側わん症	1			1							
内反足			1			1	1	5			
二分脊椎				1			1				1
瘢痕拘縮											
大腿骨折後遺症							2				
大腿骨偽関節											
軟骨無形成症		2		2		2	1	1			
先天性脊椎骨端異形成症											
急性脳症後遺症			1	1	3	1					1
神経発達症							2				2
起立性調節障害								1	4	2	4
てんかん	1	1	2	2	1	2	3		1		1
気分障害		3		2	3	3			1	3	1
摂食障害		1	1	2	2	1	1	2	1	2	2
概日リズム睡眠・覚醒障害		1	9	2	2	1	2	3			2
その他	16	15	5	13	15	22	17	13	10	11	9
内、適応障害							14	11	9	8	7
内、その他の整形疾患							3	2	1	3	2
合 計	35	31	30	34	30	43	34	34	21	26	28

(4) 入所・入院患者の在所期間別 (毎年10月1日現在)

(単位:人)

在所期間\年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
0～1年未満	33	29	29	34	27	43	34	34	21	26	28
1～2年未満	1	2	1		3						
2～3年未満	1										
3～4年未満											
4～5年未満											
5年以上											
計	35	31	30	34	30	43	34	34	21	26	28

(5) 入所・入院患者の年齢別 (毎年10月1日現在)

(単位:人)

年齢\年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
0～1歳未満								2			
1～2歳未満		2	1			2		1	1		
2～3歳未満	1	1	2			1	1				1
3～4歳未満	2				2	2				1	1
4～5歳未満	3	2	1	2	1		2		1		3
5～6歳未満	2	2	2		1	1	1	3	1		1
6～7歳未満	3	1	1	1		4			1	1	1
7～8歳未満		1	2	1	1	1		1		1	
8～9歳未満	2	1	1	1		3		1	1		
9～10歳未満			1	2			2	1		1	1
10～11歳未満		2		1	1	1	1	4		2	
11～12歳未満	4		1			1	1	2		1	4
12～13歳未満	1	1	1	3	1	3	4		1	1	5
13～14歳未満	3	3	2	7	6	3	5	4	4	3	3
14～15歳未満	8	6	7	9	11	11	9	9	8	11	6
15～16歳未満	4	7	6	7	6	9	6	4	3	3	2
16～17歳未満		1	2				1	1			
17～18歳未満										1	
18歳以上	2	1				1	1	1			
計	35	31	30	34	30	43	34	34	21	26	28

(6) 外来患者の病類別延人員

(単位：人)

病類\年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
1 精 神 遅 滞	2,025	1,663	1,541	1,379	1,258	1,305	1,269	1,184	1,110	1,136	1,309	1,366
2 コミュニケーション障害	1,533	1,367	1,642	1,743	1,753	1,518	1,907	2,349	2,693	2,887	3,065	3,640
3 自閉症スペクトラム障害	3,642	3,865	4,237	4,087	3,996	3,910	4,102	4,636	4,086	4,041	3,955	4,007
4 注意欠陥多動性障害	3,757	4,534	4,947	5,624	6,414	6,871	6,406	6,518	5,932	5,391	5,516	5,547
5 学 習 障 害	231	228	232	278	308	279	236	235	155	179	164	195
6 発達性協調運動障害	86	175	202	437	416	485	422	300	282	301	298	444
7 運動発達遅滞	1,180	1,336	1,381	1,150	1,289	1,367	1,444	1,476	1,694	1,513	1,542	1,821
発達障害 小 計	12,454	13,168	14,182	14,698	15,434	15,735	15,786	16,698	15,952	15,448	15,849	17,020
8 先天性股関節脱臼	400	252	195	209	236	174	206	203	169	140	140	157
9 脊髄髄膜瘤・脊髄破裂症	543	526	457	353	368	391	385	265	219	232	243	254
10 開 排 制 限	169	187	365	579	701	803	846	1,017	1,083	912	956	985
11 ベ ル テ ス	51	37	46	61	58	56	50	37	63	46	34	23
12 斜 頸	40	70	42	16	20	34	29	22	25	14	9	8
13 側 わ ん 症	337	256	239	244	232	148	121	159	118	92	83	113
14 四 肢 奇 形	103	94	55	58	72	51	39	38	19	19	33	23
15 内 反 足	196	158	120	148	137	180	173	147	145	166	159	112
16 X 脚・O 脚	165	138	166	170	114	82	77	42	33	33	32	48
17 脳炎後遺症	439	347	266	197	170	150	132	163	128	116	112	118
18 片麻痺・対麻痺	315	307	265	256	223	187	132	130	102	97	104	107
19 骨形成不全	147	169	85	121	123	123	135	131	137	109	104	98
小児整形 小 計	2,905	2,541	2,301	2,412	2,454	2,379	2,325	2,354	2,241	1,976	2,009	2,046
20 気 分 障 害	610	524	379	262	188	147	136	122	128	103	106	100
21 不 安 障 害	872	733	514	503	424	341	264	189	145	142	114	106
22 摂 食 障 害	181	138	126	104	47	46	65	97	132	152	125	172
23 夜尿症・遺尿症	150	137	110	100	65	72	42	32	44	40	24	7
24 不 登 校	23	30	29	31	30	19	56	9	1	0	0	6
25 心 身 症	58	59	51	36	36	44	30	25	14	11	12	9
小児心療 小 計	1,894	1,621	1,209	1,036	790	669	593	474	464	448	381	400
26 て ん か ん	2,677	2,497	2,428	2,339	2,227	2,165	2,044	1,805	1,583	1,532	1,592	1,427
小児神経 小 計	2,677	2,497	2,428	2,339	2,227	2,165	2,044	1,805	1,583	1,532	1,592	1,427
27 脳 性 麻 痺	3,639	3,217	2,952	2,695	2,650	2,485	2,332	2,010	1,759	2,012	2,007	1,826
28 ダウン症・染色体異常	962	799	715	893	786	585	497	411	333	343	374	431
29 そ の 他	3,562	3,696	4,162	4,304	4,278	4,783	5,229	5,509	6,142	7,333	7,763	7,323
計	28,093	27,539	27,949	28,377	28,619	28,801	28,806	29,261	28,474	29,092	29,975	30,473

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(7) 外来患者の出身地別延人員

(単位：人)

出身地\年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
長 崎 市	3,705	3,330	3,237	3,245	3,222	3,198	3,306	3,396	3,384	3,503	3,544	3,468
佐 世 保 市	838	732	670	606	587	612	682	608	570	594	558	496
島 原 市	1,302	1,193	1,202	1,201	1,300	1,256	1,204	1,153	1,132	1,231	1,327	1,461
諫 早 市	10,305	9,991	10,686	11,201	11,483	11,839	12,471	12,939	12,276	12,532	12,898	12,959
大 村 市	5,771	6,216	6,139	5,996	5,875	5,599	4,805	4,672	4,586	4,505	4,943	5,455
平 戸 市	151	152	159	138	170	192	173	148	149	155	215	209
松 浦 市	87	96	90	83	109	125	102	131	115	110	128	99
対 馬 市	39	21	6	22	17	10	23	9	17	19	22	20
壱 岐 市	5	34	37	6	8	9	8	19	12	11	12	6
五 島 市	52	39	46	51	59	46	38	22	30	23	26	47
西 海 市	323	284	337	290	252	172	176	177	169	226	220	188
雲 仙 市	1,762	1,838	1,798	1,947	1,956	2,178	2,515	2,743	2,912	2,908	2,939	2,845
南 島 原 市	1,008	1,148	1,235	1,318	1,251	1,226	1,286	1,297	1,381	1,431	1,348	1,326
西 彼 杵 郡	676	664	619	723	697	657	664	723	702	732	826	926
東 彼 杵 郡	1,084	1,000	1,011	956	1,040	1,046	776	730	672	701	624	645
北 松 浦 郡	42	17	26	33	31	40	65	62	39	31	29	24
新上五島町	52	20	26	25	13	12	4	18	12	22	26	21
他 県	721	618	498	414	455	486	423	298	248	294	226	255
職 員	170	146	127	122	94	98	85	116	68	64	64	23
計	28,093	27,539	27,949	28,377	28,619	28,801	28,806	29,261	28,474	29,092	29,975	30,473

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(8) 手術実績

①令和6年度病名別手術件数

(単位：件数)

病名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳性麻痺			3	2	2	1	1		1	1			11
先天性股関節脱臼												1	1
先天性内反足							1				1		2
ペルテス病									1	1			2
二分脊椎													0
先天異常(骨系統・代謝・奇形)		1				1		1		1	1	1	6
外傷													0
その他					1								1
計	0	1	3	2	3	2	2	1	2	3	2	2	23

②手術件数の推移

(単位：件数)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成元	6	6	11	9	7	3	5	11	6	3	6	1	74
2	5	7	6	7	7	2	11	8	2	6	3	8	72
3	6	6	8	8	9	5	11	7	6	6	7	6	85
4	6	3	6	11	5	6	5	5	6	10	6	8	77
5	7	6	9	11	2	5	8	4	4	7	8	11	82
6	8	6	15	10	11	6	10	7	5	7	5	11	101
7	4	3	6	8	3	8	4	10	4	5	4	6	65
8	6	6	7	7	6	3	6	9	6	5	2	5	68
9	3	4	2	5	6	4	7	6	3	3	4	10	57
10	4	3	6	9	8	6	8	4	7	7	6	5	73
11	3	5	6	7	5	1	7	5	7	5	7	9	67
12	5	4	5	7	6	6	10	8	3	5	8	3	70
13	6	6	4	10	5	8	9	7	5	7	5	8	80
14	5	5	5	11	10	4	6	7	6	10	3	4	76
15	7	9	7	12	6	5	6	6	3	6	4	7	78
16	8	8	5	11	7	10	4	9	10	4	5	8	89
17	5	3	5	11	3	7	3	8	8	7	2	7	69
18	6	4	8	9	11	8	8	6	8	4	6	5	83
19	3	7	6	8	8	5	8	10	6	6	10	6	83
20	2	9	3	8	6	4	6	5	10	6	6	3	68
21	3	5	6	8	12	6	9	5	5	6	3	8	76
22	8	7	7	8	4	7	3	3	8	7	7	2	71
23	5	1	8	9	8	6	2	3	7	4	2	8	63
24	3	7	4	11	9	7	8	11	3	7	4	6	80
25	8	6	9	3	10	8	9	3	6	8	4	7	81
26	5	5	7	10	12	9	8	5	6	8	9	9	93
27	1	4	5	10	6	7	7	6	5	3	8	9	71
28	9	8	6	7	11	6	9	4	2	4	2	5	73
29	2	4	4	6	10	6	3	5	3	5	3	7	58
30	4	4	3	8	6	1	1	6	3	2	4	3	45
令和元	2	4	3	5	5	3	2	5	2	3	3	5	42
2	2	1	4	3	4	3	2	3	2	5	5	4	38
3	1	2	5	5	5	2	5	4	2	4	2	4	41
4	3	4	1	2	6	1	3	3	4	3	1	0	31
5	0	2	1	1	1	1	1	1	3	0	0	2	13
6	0	1	3	2	3	2	2	1	2	3	2	2	23

(9) 訓練指導件数

(単位：延件数)

訓練内容\年度		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
脳血管疾患等 リハビリテーション	外来	26,036	25,509	23,640	24,006	26,659	27,773	24,217	24,578	25,052	26,214
	入院	8,316	8,105	9,294	8,277	10,615	9,283	9,512	10,756	8,570	8,888
運動器 リハビリテーション	外来	153	184	249	217	243	313	404	408	351	439
	入院	2,616	1,795	2,630	1,912	2,771	2,906	2,041	1,078	1,914	1,852
障害児(者) リハビリテーション	外来	71	72	69	90	69	83	28	53	40	83
	入院	309	4	2	0	0	0	22	12	9	0
摂食機能療法	外来										
	入院	356	296	285	250	289	319	457	521	603	375
通院精神療法	外来	12,807	13,482	14,600	14,387	14,404	16,283	17,153	18,233	19,358	19,443
通院集団精神療法	外来	18	23	28	19	31	73	40	31	21	43
心身医学療法	外来										
てんかん指導	外来	1,180	1,156	1,174	1,013	704	18	974	1,348	1,391	1,340
小児運動器疾患指導	外来				91	37	34	135	291	206	152
小 計	外来	40,265	40,426	39,760	39,823	42,147	44,577	42,951	44,942	46,419	47,714
	入院	11,597	10,200	12,211	10,439	13,675	12,508	12,032	12,367	11,096	11,115
合 計		51,862	50,626	51,971	50,262	55,822	57,085	54,983	57,309	57,515	58,829

(10) 入所者の要介護の状況

(単位：人)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
食 事	全 介 助	2	3	3	4	8	5	4	3	5	4
	部分介助	6	1	0	2	4	1	1	2	2	3
	自 立	19	26	31	21	31	28	26	16	19	19
排 泄	全 介 助	2	4	4	4	12	5	6	5	7	6
	部分介助	7	7	3	4	2	4	2	0	5	2
	自 立	18	19	27	19	29	25	23	16	14	18
衣 服 着 脱	全 介 助	2	3	4	5	11	5	6	4	7	6
	部分介助	7	3	0	2	3	5	1	1	5	0
	自 立	18	24	30	20	29	24	24	16	14	20
保 清 入 浴	全 介 助	2	6	4	5	11	5	5	5	7	6
	部分介助	10	5	2	2	3	6	2	0	5	0
	自 立	15	19	28	20	29	23	24	16	14	20
移 動	全 介 助	3	3	4	2	11	5	5	4	7	6
	部分介助	10	3	4	5	3	2	1	1	5	1
	自 立	14	24	26	20	29	27	25	16	14	19
移 乗	全 介 助	7	5	4		11	7	6	4	7	6
	部分介助	5	4	5	5	3	1	0	1	5	2
	自 立	15	21	25	20	29	26	25	16	14	18
言 語	全 介 助	1	3	2	2	6	5	4	4	5	4
	部分介助	11	2	1	1	4	6	2	1	4	2
	自 立	15	25	31	24	33	23	25	16	17	20
理 解	全 介 助	3	3	3	2	6	5	4	4	4	4
	部分介助	8	2	1	1	4	1	2	1	3	2
	自 立	16	25	30	24	33	28	25	16	19	20
入 所 実 人 員		27	30	34	27	43	34	31	21	26	26

(注1) 10月1日現在の在院児

(注2) 評価法は3段階とする。

全介助：FIM（機能的自立度評価法）2～1

部分介助：FIM 5～3

自立：FIM 7～6

(注3) 「排泄」はFIMの「トイレ動作」と「排泄コントロール」を合わせる。

(注4) 母子入所児を含む。

(11) 障害児等療育支援事業（実績）

（単位：件）

事業名 年度	①訪問療育相談支援事業		②外来療育相談 支援事業	③地域生活特別 支援事業	④地域療育支援事業 (会議、研修、実 習、講座)	⑤施設への技術支援事 業（職員派遣、見学受 け入れ等）
	巡回療育相談	関係機関訪問				
H24	423	64	255	9	8	435
H25	368	72	517	7	8	335
H26	335	68	677	3	7	325
H27	300	59	459	6	9	234
H28	306	45	315	4	9	269
H29	261	55	331	7	9	290
H30	258	42	354	14	9	282
R元	222	55	261	22	9	254
R2	112	6	309	8	2	171
R3	186	21	610	20	7	133
R4	179	15	527	9	33	127
R5	139	11	652	15	33	139
R6	152	17	738	28	39	156

(12) 医療等従事者（有資格者）研修（実績）

職 種	機 関 名	令和6年度	
		実人数	延日数
理学療法士	ラオフレンズ小児病院	1	3
	リハビリセンター大村	1	1
作業療法士	みらい学童しろみ	1	2
	こどもテラス光風台	1	1
	平戸市こども未来課	1	1
看護師	ラオフレンズ小児病院	1	3
計		6	11

(13) 令和6年度障害児(者)巡回療育相談実施状況(一覧表)

保健所名	実施日	相談日数	相談数			判定計	判定 (一部重複判定あり)							医局		リハビリ			総務 (運転)	地域連携 ・心理班	関係機関						訪問相談		意見交換会、研修会等			
			新	継	計		判定	A	B	C	D	E	F	G	整形 Dr	小児 Dr	PT	OT			ST	保健所	市町	医療機関	幼稚園・保育園・学校・施設	療育関係者	その他	件数	スタッフ	概要	参加者	計
								要入 院 または 入院 予定	外来 治療 中	セ ン タ ー 診 が 必 要	の 巡 回 診 察 で あ る	も 他 機 関 が 必 要 な 診 察 に あ る	(他 機 関 複 数 回 利用)	終了																		
県北保健所	① 5/20(月)～21(火) ※日程短縮	2	7	6	13	20	0	0	0	1	0	7	12				内田	喜々津	原田	大田	○	○		○	○		0					
	① 9/11(水)～13(金)	3	9	3	12	19	0	0	4	0	0	7	8				内田	喜々津	原田	田中	○	○		○	○		0					
	③ 1/20(月)～21(火) ※日程短縮	2	5	5	10	15	0	0	1	2	1	5	6				小田前田	喜々津	原田	白井	○	○		○	○		0					
小計		3	7	21	14	35	54	0	0	5	3	1	19	26													0				0	
五島保健所	① 6/13(木)～14(金)	2	3	8	11	14	3	0	0	0	11	0	0	二宮		峰松			原田	吉川	○	○	○	○	○		2	訪問リハビリスタッフ他	五島中央病院との合同カンファレンス	保健所職員、市職員、医療機関従事スタッフ	14	
	② 7/10(水)～12(金)	3	7	5	12	16	1	0	0	3	1	4	7			山縣	濱	原田	白井	○	○		○	○		1	訪問看護スタッフ、市保健師他					
	③ 9/26(木)～27(金)	2	1	6	7	7	0	0	0	0	6	0	1	川口		馬場寄			原田	吉川	○	○	○	○	○		2	保健所、五島市職員、訪問リハビリスタッフ	五島中央病院との合同カンファレンス	保健所職員、市職員、医療機関従事スタッフ	8	
	④ 12/11(水)～12(木) ※日程短縮	2	3	5	8	9	0	0	0	0	0	1	8			小田	濱	原田	田中	○	○		○	○	○	0						
小計		4	9	14	24	38	46	4	0	0	3	18	5	16												5					22	
上五島保健所	① 6/20(木)～21(金)	2	1	9	10	11	1	0	0	3	6	1	0	川口		前田			原田	赤羽	○	○	○	○	○		0					
	② 8/21(水)～23(金)	3	9	4	13	13	2	0	1	0	2	0	8		北島		小田	鶴嵩	原田	大田	○	○	○	○	○		0					
	③ 10/17(木)～18(金) ※日程短縮	2	0	8	8	8	1	0	0	0	7	0	0	二宮		緒方			原田	※急病により欠席	○	○	○	○	○		0					
	④ 1/15(水)～17(金)	3	11	3	14	17	0	0	0	2	4	3	8		町		小田	鶴嵩	原田	大田	○	○	○	○	○		0					
小計		4	10	21	24	45	49	4	0	1	5	19	4	16												0						
杵岐保健所	① 6/6(木)～7(金) ※対象無く中止	0	0	0	0	0																				0						
	② 7/25(木)～26(金)	2	1	8	9	9	0	0	0	1	8	0	0	川口		本嶋			原田	松浦	○	○	○	○	○	○	1	訪問看護リハ、杵岐市、保健所、補装具業者他				
	③ 10/10(木) ※日程短縮	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1				浦	藤田	原田	大田	○	○		○			0	杵岐地域療育研修会「気になる子どもへの支援について～保護者支援～」講師 大田心理士	市内保育所・幼稚園・認定こども園、放デイ、杵岐こどもセンター職員	32		
	④ 11/28(木)～29(金)	2	3	5	8	10	2	0	0	0	5	2	1	二宮		本嶋			原田	松浦	○	○	○	○	○	○	0					
小計		3	5	5	13	18	21	2	0	0	1	13	3	2												1					32	
対馬保健所	① 6/26(水)～28(金)	3	4	6	10	14	1	0	0	0	7	4	2		林田		琴岡	若松	原田	田中	○	○		○	○		0					
	② 8/29(木)～30(金) ※台風欠航により中止	0	0	0	0	0																				0						
	③ 11/13(水) ※日程短縮	1	3	1	4	6	0	0	0	1	0	2	3		町		浦	若松	原田	白井	○	○	○	○			0					
	④ 1/30(木)	1	0	2	2	2	0	0	0	0	2	0	0	二宮		本嶋			原田	梯	○	○	○	○			0					
小計		4	5	7	9	16	22	1	0	0	1	9	6	5												0					0	
	令和6年度 実績数 17回	36	68	84	152	192	11	0	6	13	60	37	65													6			3回		54	
	令和5年度 実績数 18回	36	68	84	152	192	0	0	6	13	60	37	65													6			4回		54	
	令和4年度 実績数	38	80	99	179	202	7	0	6	27	48	22	91													2			3回		68	
	令和3年度 実績数	41	74	112	186	206	0	0	0	14	69	20	68													1			2回		26	
	令和2年度 実績数	20	40	72	112	129	0	0	21	9	46	18	35													0			5回		179	
	令和元年度 実績数	40	84	138	222	250	4	0	27	45	66	28	80													1			10回		157	